

広報

土づくり

1月
2023

本年もどうぞよろしく お願い申し上げます

白鳥隼太郎君は現在、特別支援学校高等学校 3年生。土屋の統合課程(重度訪問介護従業者養成研修)の外部ゲストとしても活躍中です。明るくイケメンな隼太郎君は、受講生にも大人気。今回は母であり、ホームケア土屋南東北エリアマネージャーである白鳥美香子さんにお話を伺いました。



隼ちゃんもこんにちは！

名前:白鳥 隼太郎(しらとり しゅんたろう)
出身:宮城県仙台市
障害名:脳性麻痺(障害区分6)

誕生から現在

妊娠中に私の悪性リンパ腫が見つかり、3人きょうだいの末っ子として早産で出産しました。出産後に息子の脳に障害が出てきてしまっ、脳性麻痺となりました。生後6か月くらいで「点頭てんかん」という、手足がぴくぴくぴくとなる発作が起きました。その後は収まり、2年前からまた少しずつ発作が出てきて、今は3か月に1回くらい発作が

起きるような状態です。

息子は全介助で、知的障害もあるのですが、決まった単語は言えます。「これする?」と言えば「はい!」と返事をしたり、笑ったり。表情を見て、大丈夫かな?満足してるかな?とか、笑顔だと楽しいんだなと、「読み取る」感じでも「ミニニケーション」しています。

笑わせて育てる!
Mikaママの育て方

息子の介護は私と母でしています。が、声を出す・食べる・お腹に力を入れるなどの運動機能を発達させたかった。とにかく笑わせようと、それが一番声も出るし、腹筋も顔の表情も鍛えられるんじゃないかと思つて、「こちよこちよ」に専念しました(笑)。

小さい頃は「隼太郎君」って言っても、声を出したいけれども出ないんですね。だからまずはくすぐって、笑わせて、声が出るんだと分かってもらつて。そうすると、「はい!」って声が出るんです。だから、足の裏を見

ればこちよこちよ、わきの下をこちよこちよ、頭をこちよこちよ。私なりの育て方です(笑)

学校について

幼少期は発達相談センターに行き、そこから母子通園、次第に一人での通園になり、小学校からは同じ特別支援学校に1-2年間通っています。

「トイレトレーニング」や「リハビリ」、「食事介助」等も、家庭でやっていることは学校でも先生方が同じようなスタイルを取ってくださり、小学校から息子に合わせた支援をしてくれています。

今は高等部の3年で、卒業後は生活介護事業所に行く予定です。仙台市では生活介護事業所に行くのも実習と抽選があるので、現在は支援先と仙台市の精査を踏まえた内定待ちです。

隼太郎君は家族の「宝」

息子がまだ幼い頃は「健常者に少しでも近づきたい」という思いがありました。そのために「できることはなんでもしたい」と、今までに2度ほど足の手術もしています。けれど、息子との生活を通して、私の考え方や人生そのものも変わりました。

以前は彼を守るために、学校などでいろんな方に主張していった。そっうしないと叶えてもらえなかったんです。でも、息子がいたから私は介護の仕事を始め、この仕事を通して先生方の立場や、安全性を考えて

対応してくれていたことなどに気づきました。仕事も考え方も、彼が素敵に引き寄せてくれたんじゃないかなと思つています。

それに、上の二人も「いずれ弟の面倒を見る」というつもりで、姉は看護大学に、兄も東北大学に進学して、卒業後もしっかりと生活をして隼太郎君を支えようと考えてられています。うちの家族は隼太郎を中心に回っているんです。親亡き後の不安はありませんが、隼太郎君は私たちの「宝」なんです。彼がいることで、七十八歳になる母もお世話しなきゃ!と元気です。私も頑張つて仕事しなきゃいけないという強い想いも湧いてくるんです。そして一人一人が役割をもち、お互いが助けあひながら生活しています。

Q:隼太郎君ってどんな人?

A:ビッグベイビーみたいな感じです。笑顔が多くて、ふざけることも好きですし、とても素直に感情表現を出してくれる子ですね。人が好きなので、話しかけられると喜びいっぱいでお返事します。

Q:隼太郎君の好きなことは?

A:飼っている犬を友達だと思つて、ボールをベッドの下に落として遊んだり、おしっこやうんちをするの「あー」って教えてくれたりと、犬の世話が好きですね(笑)あと音楽を聴いたり、楽器を鳴らしたりすることも好きです。ティッシュを取って全部出してしまつたり、いたずらも好きです。好奇心旺盛なので、なんでもやりましたがりなんですよね。

土屋と共に「統合課程」

今は土屋の訪問サービスを利用して、私が忙しい時に朝の支度に入ってもらったり、夕方の放課後デイの帰宅後にお手伝いしていただくこともあります。1年ほど前から月に1、2回、私が講師を務める統合課程に息子も参加しています。私と一緒に仙台、盛岡、秋田、郡山に行くこともあります。私が登壇して、息子はあくまでもゲストという形で、彼の普通の生活を見てもらうスタイルですね。



例えば外出支援の研修などでは、受講生に車椅子を押してもらったり、受講生に実際に乗ってもらい、段差や後ろ向き移動も体験してもらいます。また、移乗や食事、水分補給、排泄介助や体温調整なども見学してもらっています。受講生も皆さん優しく、よだれを拭いてくれたり、声を掛けてくれ

たりして、そうすると息子もすぐくテンションが上がって、もつと構って！みたいな感じになります(笑)

「隼ちゃんとMikaママのほのぼの会話集」
YouTube動画はこちら！
https://www.youtube.com/@mika_syun



その研修を始めてから、彼も自分の役割を見つけたようで、「研修行こうね」と言つと、「はい！」と自分の仕事みたいな感じでしてくれています。そこから顔つきもキリッとしてきました。土屋のYouTubeにも出演しています。撮影を始めてから言葉も少しずつ増えてくるようになってきました。さらに人の話もよく聞くようになって、「いつてきます」と言つと、それを真似できるようになってきました。そういう成長が嬉しいですし、土屋の中で役割をいただいたことにも感謝しています。

障害児の母として、土屋の「エリアマネージャー」として

当初は障害を持つ子の家族として福祉の方たちと関わってききました。その後、介助者側となり、「もうちょっとヘルパーさんに優しくしなきゃいけないかな」と思い始めました(笑)。介護に携わって約4年が経ち、エリアマネージャーとして広い視野で業界を見渡せるようになったことで、双方の気持ち、立場が深く分かるようになりました。何か問題が起こってももちろん両者の言い分はありますが、お互い引くところは引いて、いい距離を保って、いい関係を作るのが一番クライアントの幸せになると思います。

争奪 ありがどう伝えていますか？

土屋には、障害を持った人も多く働いています。何人かに家族の事を聞いてみると、独り暮らしをしているが母が仕事帰りに毎日通って来てくれて助かっている。欲しい物を翌日には買って来てくれる。世間がクリスマスだ正月だとTVでもコマースでも美味しそうなるものを流す時期、自分は病院食メニューを食べているのに、家族が美味しそうなる食事をした事を知り不愉快だった。でもそのあと好物を買ってきてくれた。と、どの親子の日常も、我が子を想う親心、愛情を感じました。ところが、それに対して、皆が皆、特に感謝を伝えていないようなのです。是非一言ありがとうを言ってみようとお願ひしました。さて、言えたのでしょうか。また、中には、親からの遺伝性の難病の人もいます。コロナ禍で会わないようにして、毎朝、毎晩、家族に電話をし、お互いの服薬と無事を確認する。でもその薬のせい、たまにどちらかが電話途中に寝落ちして、余計に心配になるということも有るとか。お互いが病気だと、親も子も同じ時が同じになって心理的にもかなり疲弊するそうです。遺伝的なものでなくても、介護している家族がいつ病気になるかわかりません。老々介護だけでなく、病々介護もあるのです。世の中にはまだ「介護は家族でするもの」という思い込みがありますが、「介護はプロに任せよう」という選択によって家族が楽になれる時間が増えます。我が家も老々介護が目前です。先日十五歳になったばかりの娘がヤングケアラーにならないように、今のうちに考えておかなければなりません。このヤングケアラーについては、また次回に。 (こもゆみこ 夫が脳性麻痺一種一級)

お知らせとお願い

土屋 委員会推進室からお知らせです。クライアントの皆様の声をお聞きたく、ケアサービスについてのアンケートを実施いたします。皆様のご自宅にアンケート用紙を1/20前後にお送りしますので、郵送またはWEBにてご回答ください。

WEB回答用URLはこちら



アンケート回答期限 2/20

広報・土づくりへのご意見・ご感想

株式会社土屋の各種取組みについてのご意見や、当社介護サービスにおいて虐待や不当な身体拘束が疑われる場合がありますらご一報ください。

ご意見・お問い合わせ窓口
client@care-tsuchiya.com



本社：岡山県井原市井原町192番地2久安セントラルビル2